

## 特集：入学

## 充実した大学生活を！

鈴木 石根（筑波大学 生命環境科学研究科）

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。予想していなかった大きな地震の影響によって、何となく心の晴れない春となりました。特にご家族・ご親戚・ご友人等が被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げます。幸い筑波大学の在校生・教職員に大きなケガ等はなかったようですが、筑波でも地震後の停電・断水がおこり、これまでに蓄積した研究上の貴重なサンプルの多くが失われました。福島原子力発電所が制御不能になったことと合わせて、自然の力の大きさに我々人間の無力さを見せつけられた思いがいたします。

また、ご家族の皆様にとっては、大切に育てられたお子様が大学入学を機に親元を離れ1人で生活を始めるケースも多いでしょうから、いろいろと不安に感じられることもあろうかと思えます。担任として最大限の配慮をしていくつもりですので、何かございましたら遠慮なくお尋ね下さい。

さて、新入生の皆さんは、大学生となって多くの希望とともに若干の不安を持っておられることと思えます。先日自己紹介してもらった時に、大学でどんなことをやってみたいか、不安に感じていることは何かということについて話してもらいました。多くの学生さんが具体的に学びたい目標を明確に持っているのに驚きました。自分が大学1年生だった20うん年前のことを思うと、とても頼もしく思いました。ぜひその初心を大事にして欲しいと思います。私は学生時代、1年生から3年生まで馬術をやっていた、あまり熱心に勉強しませんでした。もっと基礎の科目をきちんと勉強しておけばよかったと思うことがしばしばあります。どうか皆さんは易きに流れることなく、部活やサークルに入っても規則正しく自分を律して、入学時の今持っている目標に向かって勉学を続けて欲しいと願います。

筑波大学では、Imagine the Future というキャッチコピーをうたっております。このフレーズは個人的にたいへん気に入っています。1年後、5年後、10年後の自分の将来像を思い描きつつ、今現在必要なことは何かよく考えて、目標に向かってコツコツと積み上げて行って欲しいです。それはきっと皆さんの将来に何らかの形で役立てられると思えます。震災からの復興ではこれまでのエネルギー政策が見直され、我々生物学を学ぶものが貢献できる機会が増すでしょう。社会からの期待も大きくなると思えます。これからの大学生活で、こういった形であれ将来の社会のために貢献するための基礎を十分養って、活躍していただけることを期待しております。そのためのお手伝いができるようがんばります。

一方、大学生活で不安に思っていることについては、講義について行けるか単位をきちんと取れるかということをおける学生さんが何人かいました。大学の講義を受けたことがないので、不安に思うのは当然だと思います。高校までの授業は教科書に沿ったものでしたでしょうし、先生は授業のポイントを明確に指示し

てくれたと思います。私が言うのも何ですが、大学のほとんどの講義はそんな感じではありません。講義を聴いてどこが重要な点か、どうしてそれが重要なかを自分で判断して理解しなければならないでしょう。これまでの長い学問の積み重ねの結果である膨大な知見を、講義の中の限られた時間で全て話すことは不可能ですので、どうしても自分自身で調べて学ばないと講義と講義の内容のすき間を埋めることができません。そういうわけなので、講義を聴いてわからないことがあるのは当然と思って、自分から疑問を持って講義に望む、先生・先輩・友人に質問し、自分なりに理解することが必要だと思います。友達どうして工夫して一緒に勉強するのもよいと思います。そういうことを日頃から積み重ねていけば、単位は自ずとついてくるとおもいますので、それほど心配しなくても大丈夫だと思います。

我々教員は講義等をして教育するだけでなく、同時に研究者でもあります。教科書に記載されていない、あるいは間違った記載を発見し、正しい記述を広く社会に示すことを生き甲斐としています。自分の仮説通りに証明できるとたいへん満足でき、楽しいものです。ぜひ皆さんとそれを分かち合いたいです。研究に当たっては、まず、これまでの文献を読んでわかっていることと不明なことを整理します。それを元に自分で仮説を立てて、実験を計画実行し、仮説を検証して公表する。この一連の行動は単なる学者の満足のためだけではありません。これはいわゆる PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルとも一致し、一般社会で生活するためにも有効な考え方です。自分で研究するための考え方は、知的好奇心を満たすだけでなく、将来社会に出て生活する上でもたいへん役立つものです。ぜひ、皆さんと研究できるのを楽しみにしています。その結果、教科書を書き換えられるような、成果を一緒に挙げたいと思います。そして少しでも、社会の役に立てるようになれたら、それに勝る喜びはないと思っています。

最後に一言だけ、後悔のないように充実した大学生活を送って下さい。

Contributed by Iwane Suzuki, Received April 18, 2011.

Revised version received April 27, 2011.